

火風水土ヲ一觀シ來ル : 論説

著者	安東, 俊明
雑誌名	龍南會雜誌
巻	1 6
ページ	1 0 - 1 6
発行年	1893-04-30
その他の言語のタイトル	火風水土を一觀し來る : 論説
URL	http://hdl.handle.net/2298/4040

またるものゝなまじは、却りて之をして淺劣なるものとならしむ、斯の如きは、清涼なる水に滋養の物質あり、月に花に、造化の與へたる勸懲の目的ありと云はむと、まことに一樣ならずやは。

竹取物語の被感化

文學は社會の反映なり何の文學か其社會の影響を受くるべき、されば竹取物語が感化を被りたるもの、假令隱微の裡にありとせざるも、大凡五種あるを覺ふ、

其結構の上には當時一般の思想、風俗、及佛教なり、

其文辭の上には當時の國語及支那文學是れなり、

當時一般の思想、風俗に就ては已に前に云ひぬ、佛教、國語、及支那文學は之を後に説くべし、其感化は何の點に及びたるやは、吾は將に條を分ちて、細論せむとするなり、

(未完)

水火風土の一觀シ來ル

安 東 俊 明

覆載間四大物アリ、火風水土卽是ナリ、古人ハ木金ト併稱シテ(風ヲ除ク)五行ト云ヘリ、火風水土ノ物タル無機ノ体ニシテ高妙ナル有機的官能アルニアラズ熟レドモ此四者之ヲ仔細ニ觀シ來レハ却テ區々タル有機的官能ヨリ迴カニ卓越セル本体ト變動トアルヲ知ル、古ニ仁者愛山智者愛水ノ語アリ、火風ハ何者ノ愛スル所ナルヤヲ知ラズト雖吾人ハ其絶大至妙甚驚クベキ者アルヲ想見セズンバアラズ、且ツ此四者之ヲ人生行爲ノ諸點ト對照比較スルハ其間大ニ妙味ノ存スルヲ感シ、更ニ進ミテ查究スレバ此四者却テ人間行爲ノ師表タルベキ資格ノ自ラ備ハレルヲ觀ズ、奇ト謂ハザルベケンヤ、

火ノ性タル烈、發シテ光トナルハ明徹燦爛動キテ熱トナルハ奔騰危劇、時ニ燈火親ムベク爐火近クベシト稱セラレ、或ハ時ニ堅鐵モ猶之ヲ溶シ、相容レザルノ水モ之ヲ驅リテ瀋力トナスアリ、其他百般ノ事ニ通シ人生日常必需ノ力タルヤ疑フベカラズ、其一旦奮然トシテ大ニ起ルニ及ンデハ猛烈迅疾敢テ當ルベカラズ忽チニシテ焚爛シ灰燼之ニ次グ、貴賤何物ゾ、大小何ゾ撰バン、美醜固ヨリ嫌フ所ニアラズ、勇往猛進風ヲ起シ天ヲ焦シ遂ニ盡サズンバ止マザルナリ、見ルベシ一片ノ餘燼モ一タビ激スレバ忽チニシテ大廈ヲ燼シ高樓立ロニ驅ラレテ天外一片ノ煙ニ歸スルヲ、中古地中海ノ商國カーセーヤハ羅馬戰士ガ投ジタル一片ノ導火ノ爲ニ捕ヘラレ、忽チニシテ至悲至慘ノ燒土トナリ國運ヲ併セテ滅却シ去レリ、魯都モスカウモ全ジク火神ノ威力ヲ以テ強ナボレオン遂ニ進ムニ由ナシ、其威勢ノ強大猛烈ナル驚カザラント欲スルモ得ベカラザルナリ、火ノ最大ナルヲ太陽トス、其威德ノ眞善眞美、至強至大ナルニ至リテハ惟宇宙絶對ノ一語アルノミ、支那神代ノ二王地皇氏及神農氏ハ火德ノ王ト稱ス、史家之ニ註シテ凡色尙赤ト云ヘリ、豈其火德ノ大ナルヲ意味スルニアラザルナキヲ得ンヤ、嗚呼火德ナル哉火德ナル哉、昇リテ天ニ發スレバ則光トナリ、降テ下ニ聚マレバ則熱トナル公明正大勇威凜冽宇宙ノ萬生賴シテ以テ安シ、嗚呼火德ナル哉、人生豈火德ナカランヤ、豈火德ナカルベケンヤ、

風即現今ノ所謂大氣ハ世界ニ包繞セル氣体ニシテ行ク處トシテ滿タザルナシ、往昔西洋未開ノ時代ニアリテハ神ハ眞空ヲ嫌フトナセリ、是大氣偏ナク黨ナク、稀ヲ補ヒ薄ヲ助ケ蕩々トシテ王道ノ盛ナルガ如キノ眞理ヲ包ミタル精語ニアラズヤ、見ルベシ、一方ノ氣ニ過不及ヲ告クルアラシカ忽チ馳セテ之ニ赴ク此動ヤ即現今學理上ノ所謂風ナルモノナリ、偏セズ黨セズ蕩々トシテ

汎ク地上ノ衆生ヲ覆ヒ運動輕快骨テ遲疑逡巡ノ跡トアルナシ風力亦偉ナリト謂フベシ、發シテ楊柳ノ風トナレバ蒼生ヲ將ニ枯死セントスルニ回復シ、玆ニ鳥歌ヒ花笑フノ天地ヲ呼ビ、習々トシテ坐ニ吹キ送ル涼風ハ炎帝ノ暴威ヲ輕クシテ萬物爲ニ生色アリ、秋高ク馬肥ユルノ夕、襲ヒ來ル一陣ノ悲風ハ壯士ノ鐵腸ヲ吹テ奮興一番髮衝冠ノ快アリ、雹雪ヲ驅リ地上ヲ掃フ刀ノ如キ北風ハ一撃ノ下頭ヲ斷テ肌ヲ劈クノ概アリ、溫乎タル韶風時ニ君子ノ如ク、嚴乎タル淒風時ニ烈士ノ如シ、其大ニ起ルニ及ンデヤ木ヲ拔ギ屋ヲ發キ巖ヲ碎キ砂ヲ捲キ、或ハ水ヲ蹶テ奔馬ノ濤ヲ搖カシ若シクハ火ヲ驅リテ百物ヲ灰ニセシム、嗚呼靜ナル時ハ有レ_レ無キニ均シク而モ冥々ノ裡地上ノ衆生ニ德シ、動テ和ナル時ハ凡百ノ生物ヲ引テ無上ノ樂境ニ居ラシメ、一旦奮然トシテ激スルニ當リテハ輕快迅速、瞬間千里ノ勢ヲ以テス、天下終ニ當ルモノナシ、風性蓋シ亦驚クベキモノアリ、支那ノ古皇伏羲氏風性ヲ稱ス、姓者統其祖考所自出トアリ、祖考ノ自リテ以テ風ニ出ヅルトナスモノ亦故ナシトセンヤ、地球上最洪大ナルモノハ水ナリ、洋々トシテ球面ノ大部ニ漲ル、其常体ハ正平均一滑ナルコ_レ鏡面ノ如ク世已ニ水準或ハ水平ノ語ヲ來セリ、其淡々トシテ致アリ汪々トシテ量アル大人君子ノ容ニ似タリ、古語ニ君子之交談如水ト云ヘリ、發シテハ河海沼澤湖池等トナリ、或ハ溪深キ處塵襟ヲ滌フノ清泉トナリ、或ハ急ニシテ奔流トナリ、或ハ寬ニシテ碧潭トナリ、高崖ニ懸ルキハ飛下幾千尺ノ瀑布トナリ、或ハ水邊徐ロニ風來ルノ時漣漪月光ヲ留メテ金波溶々ノ美觀ヲ呈シ、山ト相映シテハ所謂山水ノ勝ヲ作シ、或ハ千疊ノ怒濤百雷ノ響ヲナスキハ陸地ヲ囓ミ巨船ヲ弄シ天地爲ニ覆ヘラントスルノ勢アリ、變シテハ油然トシテ雲トナリ、沛然トシテ雨トナル、人畜草木勃然トシテ生色ヲ得、昔者湯王自ラ雨ヲ桑林ノ野ニ禱リ六事ヲ以

テ自ラ責メ方數千里ノ間爲ニ膏雨ニ浴スルヲ得タルアリ、小野小町モ亦天下ノ爲ニ雨ヲ乞フノ歌一首ヲ讀メリ、「ことわりやひのもとならはりもせめさりとてはまたあめか下とは」雨ノ德蓋亦大ナルヲ知ルベシ、又變ヲテ蒸氣力トナルルハ文明世界ニ驅騁シテ凡百ノ機關ヲ驅リ轟々然底止スル所ナシ、此轟々ノ聲實ニ世界物質的進歩ノ音聲ニアラズヤ、嗚呼一掬ノ水ハ以テ渴者ノ命ヲ救フベク混々タル河流ハ平野ヲ浸シテ惠禾穀樹卉ニ及ビ、霏々纖々ノ雨ハ山上山下高原荒野ニ蒼生ヲ養ヒ、注々漫々タル海洋ハ底濶フシテ大魚ノ跳ルニ任シ、地理家ハ之ヲ以テ天候ノ調節ヲ來スト云ヒ若シクハ交通ノ大道タリトナス、其体ノ高潔其德ノ廣大豈ニ驚キ且ツ歎ズベキニアラズヤ土ノ性タル堅ナリ、不動ナリ、萬物ヲ載セテ草木爲ニ生ジ、人畜賴テ以テ居ル、五穀蕃熟穰々トシテ家ニ滿チ天下泰平國家安康ヲ致ス土ノ賜ヤ大ナリ、是實ニ國家組織ノ第一基礎ニアラズヤ、世已ニ國土若シクハ社稷ノ語アリ、蓋亦動スベカラザルノ定論ナリ、起テハ則山嶽トナリ、巍峨トシテ雲表ニ聳ヘ、萬古不變百世不動ノ態ヲ持ス、ヒマラヤ山翠乎トシテ永ク亞細亞ノ中原ニ聳ヘ、富士山屹然トシテ長ヘニ八洲ニ跨ル、伏シテハ則平野トナリ、廣袤幾千里稊穀年ニ豐ニ人蓄蕃殖ス、恰是天然ノ無盡藏ニアラズヤ、或ハ丘トナリ或ハ溪トナリ、草萌ヘ花開キ禽鳥飛鳴シ牛羊麋鹿濯々トシテ游走シ、清泉湧出鮮魚波間ニ跳ルモノ亦其間ニアルナリ、見ズヤ古來東西南北人民アリテ以來征戰攻伐ノ事史上重要ノ材料タルヲ、多クハ是領土ヲ爭フニアラザルハナキナリ、若シ夫レ土ナクンバ歴史ナキナリ、戰爭ナキナリ、國家ナキナリ而シテ又終ニ人民ナキナリ、民人其土ニ安ンシ凡百ノ事始メテ起ルヲ得ベシ、人ト土ト實ニ是レ天下國家ノ二大要素タリ、嗚呼土ナル哉、土ナル哉、土ヤ實ニ天下國家ノ柱石タリ、宜ナリ、黃帝軒轅氏土德

ノ王ト稱スルヤ、熟思フ、火ノ急劇ナルハ勇ニ近シ、人ヲシテ慄レシム、風ノ輕快ナルハ知ニ近シ、人ヲシテ悅バシム、水ノ寛裕アルハ仁ニ近シ、人ヲシテ威セシム、土ノ莊重ナルハ義ニ近シ、人ヲシテ崇バシム、然レドモ勇、劇ニ馳スレバ暴トナリ、知、輕ニ失スレバ猾トナリ、仁、寛ニ流ルレハ鈍トナリ、義、重ニ偏スレバ頑トナル、四者必ズシモ此失ナシトナサザルナリ、

古ノ三世相ニヨレバ、人ニ木性、火性、土性、金性、水性アリ、古人木火土金水ノ五行ヲ以テ世界ノ元素トナシ甚其功ノ顯著ナルヲ感ゼリ、蓋シ其性ノ傾向スル所ヲ察シテ之ヲ人性ニ配シタルモノナランカ、三世相ハ某歲(十二支中ノ)ニ生レタルモノヲ以テ必ズ某性(木火土金水中ノ)トナス、蓋シ生得本性ノ如何ヲ問ハザルモノ、如シ、是果シテ現今學理ノ許ス所タルヤヲ知ラズト雖予ハ人間生レ得テ後必ズヤ右諸性中ノ某性一若シクバ二三ヲ具有スルモノナルベキヲ信ズ、木性、金性ハ其關ハル所甚太ナラズ故ニ予ハ火水土ヲ撰ミ風ノ一ヲ加ヘ此四者ヲ推シテ之ヲ人ニ取り四性若シクバ四德ト曰ハント欲ス、太古已ニ火德、風性、土德等ノ稱アリ、四性或ハ四德ノ語未必ズシモ當ラズトナスベカラザルナリ、人或ハ言ハン活人界已ニ道德ノ体アリ、何ゾ必ズシモ死物ニ象ルコトヲナサンヤト、人活物ナルガ故ニ自ラ道德ニ從フベキヲ知ル、然レモ其活物ナルガ故モ却テ又之ニ背クコトアリ、且ツ道德本無形、容易ニ知盡スベカラズ、故ニ上下幾千載ノ長キ東西六大洲ノ廣キ人ト道ト宛然一体ナルモノ蓋シ甚稀ナリ、彼天然ノ物体ニ至リテハ、別ニ活能アルニアラズト雖モ、一片ノ火一陣ノ風、一掬ノ水、一杯ノ土ト雖モ苟モ火タリ風タリ、水タリ土タルノ性ヲ失フコトナキナリ、而シテ四者ノ動若シクバ靜、變幻出沒スル所必ズ其形アリ、人之ヲ觀シ當ニ則ルベキハ之ニ則ル決シテ不可アルヲ見ザルナリ、昔者禹王收九牧之金鑄九鼎三足

象三德トアリ、蓋シ三德トハ正直、剛、柔、以テ鼎ノ三足ニ擬スルナリ、死物必ズシモ法トナスベカラザルノ理アラシヤ、

古今人物予ノ所謂四性ノ一部ヲ備フルモノ多シ、茲ニ一例ヲ取ラレ、曰ク織田信長ノ急劇熱性ナルハ火ノ如ク、豐臣秀吉身ヲ微賤ヨリ起シ、快刀亂麻ヲ斬ルノ手ヲ以テ一朝ニシテ天下ノ紛亂ヲ一掃シ餘力遠ク朝鮮ヲ掃ハントス、輕快迅速ノ狀疾風ニ類ス、徳川家康寛廣久シキニ耐ヘ漸ク以テ天下ノ公伯ヲ侵濕シ盡シ時ニ或ハ波瀾ヲ起シテ大坂城ヲ大渦ノ中ニ捲キ落シ或ハ福嶋ヲ沈メ加藤ヲ覆ヘシタルガ如キハ其跡甚水力ニ近シ、加藤肥州ノ確乎不拔抵死不動ノ至誠ヲ以テ屈セズ懼レズ一意ニ幼君ヲ扶養補佐シタル者亦復タ土德ニ似タリ、

凡シ世界人類アリテ以來、識一世ニ高ク德千載ニ輝キ、以テ萬世ノ師表ト稱スルノ人ナキニアラズ、孔孟、老莊、佛陀、基督ノ如キ共ニ萬世ノ師表トシテ後世ノ尊崇スル所ナリ、故ニ孔孟ヲ學フ固ヨリ可ナリ、老莊ヲ學ブ固ヨリ可ナリ、佛陀基督ヲ學ブ亦固ヨリ其可ナル所ナリ、然レモ吾人ハ獨リ憂フ、近代ニ至リテハ何ガ故ニ所謂自然ヲ代表シ天道ト一体タルノ人ナキヤラ、古聖賢ノ感化ハ其レ將枯朽セルカ、後世ノ人類其將劣種ナル乎、當世ノ科學ハアレモ纔ニ藝能ヲ達スルニ足ルノミ以テ精神ノ安ヲ致スニ足ラズ、惟其レ聖賢ノ道ヲ述ベ、人生ノ得失ヲ辨シ、國家ノ務ヲ談シ社會ノ幸福ヲ計ルニ至リテハ天下豈其人ナシトセシヤ、今ノ少年タルモノ須ラク遺般ノ人ヲ仰テ以テ精神的ノ開發ヲ勉メ且ツ去リテ師友ヲ人間以外ニ求メ以テ天然ト譬喩相接シ不言ノ理不説ノ間自ラ以テ開發ヲ來サント是レ亦一快事ニアラズヤ、彼火ヲ見ヨ、彼水ヲ見ヨ、彼風彼土深ク之ニ接セバ盡ク是吾人ノ師友ニアラザルハナキナリ、古來君子往々ニシテ山水、風月ヲ友

トス、眞ニ故アルナリ、我ガ熊府ノ先輩古莊嘉門氏詩アリ云ク「才子從來多誤事、議論畢竟無世功、誰知默々不言裡、山自青々花自紅」ト知音ト謂ハザルベケンヤ

内田遠湖曰、談ニ實理ニ而兼有ニ趣致、使ニ人誦讀忘レ倦、

雜 錄

南 洋 談

(承 前)

千田一十郎氏演述

國家と云ふ感念よりして余を甚しく感發せしめたるものと我國の實力に乏しき事なり歐人は其人種を異にすれば直に之を輕視せり上下老幼皆斷じて謂へらく白哲人種は世界中最優等の人種なりさむば彼輩は實に東洋人種を輕むぜり例令ば汽船にも若し其船長が東洋人なるを聞かば其船には一人の乗客もなき位なり。東洋人の内にて支那人は我國と休戚を共にすべき支那人は特に彼輩の輕蔑を被むれり彼れ歐人は支那人と其墓地を同じうするを忌み支那人と食卓を共にするを嫌ひホテルの主人は支那人の宿泊を拒むなり之を忌み之を嫌ふの極何處にても支那人をば追ひ出さむことを是れ力め之に課するに人頭税一百ポンド(我現價七百二十圓餘)を以てするに至れり斯くの如く支那人は何處にても常に仇讐視さるゝを以て南洋地方に在るものは洋服を着け弁髪を卷きつけて帽を以て之を蔽へり一見されば恰かも日本人の如きされば余は屢々支那人と誤まれ頗る難澁を被むりたることあまき彼等は日本人なるを知れば稍愛すれども決して之を敬することなきなり實につらし實に殘念なり唯致し方なしと思へるのみ。